

Introduction of Mailing List, "EVOLVE" and "JECONET"

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055612

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



- cial Issue 植物の世界第4巻”(河野昭一監修). pp. 80-83. 教育社.
- 山中典和 1994. クロモジの花生産にみられる性差と繁殖のコスト. 日生態誌 44: 321-329.
- 山中典和・玉井重信 1986. 京都大学芦生演習林のブナ天然林における低木の個体群構造について. 京大演習林報 57: 26-36.
- 柳沢聰雄 1985. オオバクロモジ “有用広葉樹の知識” (坂口勝美編), pp. 208-209. 林業科学技術振興所.
- 柳沢聰雄・川西利義 1951. 道南地方におけるクロモジ資源とその増殖法について. 北海道林業試験集報 70: 1-51.

まとめ

芦生演習林のブナ天然林の林冠下に生育する、雌雄異株性の落葉低木であるクロモジを材料として、栄養器官においてどのような雌雄間の差が見られるかについて検討を行った。主な結果は以下の通りで

ある。

1) クロモジでは、葉や枝の形質(葉の長さ、幅、葉柄長、最大分岐次数、枝角度、当年枝当たりの葉数)や、地上茎の年齢分布、さらには地上茎の齡別(の大きさ(地際直径、樹幹長、年間伸長成長量)に有意な雌雄差は見られなかった。

2) 萌芽による株の維持機構についても、株当たり地際断面積合計や株当たり生存地上茎数の頻度分布に雌雄差がなく、株当たりの萌芽発生率や、新しく発生した萌芽の生存率にも雌雄間で有意な差は見られなかった。

3) これらのことからクロモジでは栄養器官の形質、栄養成長、さらには萌芽による株の維持機構に雌雄差はないものと考えられ、雌の果実生産に伴う資源消費は栄養器官の成長に直接には影響しないものと考えられた。

(received April 7, 1995; accepted August 8, 1995)

○ 池上宙志: メーリングリスト「EVOLVE」と「JECONET」の紹介 Hiroyuki Ikenoue: Introduction of Mailing List, “EVOLVE” and “JECONET”

最近なにかと話題のインターネットですが、このインターネットを通じた情報交換の手段のひとつとして、電子メールがあります。この電子メールは通常、一対一でやりとりされますが、「メーリングリスト」と呼ばれる会合に加入すると、その会に加入している会員全員に電子メールが配布され、それに対する意見をメールとして出すとまたそれが全員に配られるというかたちを取り、新たな情報交換の場として注目されています。インターネット上での、メーリングリストを用いた情報交換の利点として、1) 研究室にいながらに行えること、2) 多人数を相手にできること、3) タイムラグが少ないこと、4) 自分の都合のいいときにアクセスできること、5) 保存して何度も読み返せること、そして何よりも参加すること自体は一般にはまったく無料であることなどが挙げられます。

生物学関連でも様々なメーリングリストが開設されていますが、その中でも進化生物学関連の情報を提供している「EVOLVE」と、生態学関連の「JECONET」は地理・分類の会員にも関連が深いので紹介することにしました。

「EVOLVE」は、進化生物学に関する情報交換や討論をするためのメーリングリストです。系統分類学・進化生態学・進化遺伝学・分子進化学から進化学史・生物哲学まで進化生物学のさまざまな分野からの投稿を受け付けています。最近の話題としては、「ドイツでの社会生物学」という投稿から端を発して、「社会生物学とはなにか」とか「ダーウィニズムとはなにか」というような議論が、行われていました。

「JECONET」は、生態学の異なる専門分野に属する研究者が、生態学の様々な主題について議論や情報交換をリアルタイムで行うためのメーリングリストです。このほかにも、生態学研究に役立つソフトの紹介とその評価などの情報交換も行っています。最近の話題としては、「ブナの種子生産と捕食者飽食仮説」に関する議論が、活発に交わされていました。

どちらのメーリングリストも、加入者の専門分野が多岐に渡っており、専門家のみによる堅苦しい議論の場という印象はありません。テクニカルタームについての質問や、実験方法や調査方法に関する質問なども多く、多分野にわたる情報交換の場として、また、専門分野の垣根を越えた活発な議論の場として、その効果を発揮しているように思います。また、有用と思われる書籍やソフトウェア、データベースなどに関する情報、はたまたセミナーや集会などのお知らせまで、関連分野のあらゆる情報が提供されています。

また、どちらのメーリングリストもコマンドが充実していて、過去のメールを検索して必要な分だけを引き出すことなどが手軽に行えます。さらに、どちらのメーリングリストも加入時に全会員リストが送信され、月

に1回は会員の異動情報もしくは会員リストが送信されるので、会員相互の個人的なメールのやりとりなども活発に行えるようになります。事実、私もこの会員リストでメールアドレスを調べて、論文についての質問を個人的に送信し、返事をもらうというような活用をしています。

さて、上記メーリングリストへの加入手続きですが、これは非常に簡単です。「EVOLVE」は、入会希望の旨を告げた上で、氏名(カナ漢字)；氏名(ローマ字)；所属(カナ漢字)を記入し、evolve-admin@affrc.go.jpもしくは管理者である三中信宏さん minaka@niaes.affrc.go.jp にメールを送信します。「JECONET」は、同じく入会希望の旨を告げた上で、氏名(ローマ字)；メールアドレス；氏名(カナ漢字)；所属(カナ漢字)を記入し、jeconet-adomin@affrc.go.jp もしくは管理者である池田浩明さん ikedah@niaes.affrc.go.jp にメールを送信します。メールが管理者から返信された時点で加入手続きは終了しています。例として、私のJECONET名簿登録用フォーマットを以下に示します。

IKENOUE, Hiroyuki ; ikechu@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp ;

池上宙志(いけのうえ ひろゆき)；金沢大学自然科学研究科生命科学専攻

これだけの情報を、上述したメールアドレスに送信するだけで、加入したメーリングリストから、毎日メールが届くようになりますし、自らも議論に参加したり情報提供を行ったりできます。「せっかくメールアドレスを取得したのに、ちっともメールが来ない」とお嘆きの方は、是非加入されたいかがでしょうか。毎朝コンピューターを立ち上げるのが楽しみになると思います。加入と同時に、運用規定および会員名簿が電子メールで送られてきますので、詳しい運用方法はそちらを参考にしてください。

現在、公的機関や大学、企業だけでなく、個人が自宅からインターネットに接続出来るようになっていきました。そのような背景からも、今後はネットワーク上での情報交換の場がますます重要な役割を担っていくことと想われます。

(〒920-11 金沢市角間町 金沢大学大学院自然科学研究科生命科学専攻 Graduate School of Natural Science and Technology, Kanazawa University, Kanazawa 920-11, Japan)

○ 橋本光政(編) 兵庫県の樹木誌 A4判, 678頁. 1995年3月, 兵庫県農林水産部林務課豊かな森づくり推進室(〒650 神戸市中央区下山手通5丁目10-1)発行. 非売品.

本書は全国植樹祭の記念誌として計画されたもので、全国植樹祭準備室から委託を受け、調査や写真撮影の計画に入ったが、それより2ヶ年という短期間にまとめられた早業には感心する。しかし、これには勿論、過去において、多くの方による調査の蓄積された資料があったからこそで、紹介者は編者ならびに、これらの方々の労に対し、深甚なる敬意を表する。

本書を拝見すると、二部からなっていて、第1部は42名の多くの方々から提供されたカラー写真が372頁にわたり登載されている。県下の野生樹木の95%が集録された由であるが、美しい写真集で、頁を繰るのは実に楽しい。次に第2部は解説で、279頁をしめ、その項目はⅠ. 自然環境 Ⅱ. 樹木相 Ⅲ. 研究史 Ⅳ. 巨樹, 自然環境保護地区 Ⅴ. 樹木目録 Ⅵ. 参考文献 である。(里見信生)

○ 田代善太郎 鹿児島県屋久島の天然記念物調査報告(復刻版) B5判, 122頁. 1995年10月, 屋久島産業文化研究所(日吉眞夫, 〒891-42 鹿児島県熊毛郡上屋久町楠川336). 2,000円.

原本は内務省編集で、大正15年7月30日に発行されたものであるが、発行後既に70余年を経験した現在ではほとんど残っていないことから、見る事が出来ない。ことに屋久島が「世界遺産」に登録され、多くの人々の注目をあびるようになってから、ここを訪れる人が増大し、これとともに本書を入手したいという要望が多くなってきたことから復刻が計画された。(里見信生)

○ 畜産技術協会(編) 写真で見る外来雑草 A4判, 44頁. 1994年3月, 畜産技術協会発行. 1,300円.

本書は近年、我が国の農耕地に侵入・蔓延し、農畜産業の基盤を脅かす、「強害雑草」30科、172種の写真集で、濃厚飼料などへの混入種子を識別するため、植物体の特徴だけでなく、種子の形態も記されている。写真の大部分は小島辰三氏が、また、種子は榎本敬氏が撮影し、解説文はほとんど小島裕氏の執筆である。

入手希望の方は倉敷市立自然史博物館友の会(郵便振替口座01200-1-32801)に「外来雑草本代」と明記の上、申込まれると送本される。(里見信生)